THE ROTARY CLUB OF TOTTORI NORTH

鳥取北ロータリークラブ

2018▼2019

国際ロータリーのテーマ
インスピレーションになろう

Rotary

◎会　長……森本 美明　◎副会長……小林 弘尚　◎幹　事……田中 和夫
◎会　計……松本 啓介　◎SAA……塚田　隆　◎活動記録担当リーダー…入江 容子

例会場：ホテルモナーク鳥取　例会日：火曜日12:30～13:30

Tel.24-3536　Fax.29-6741

■創　立：昭和36年2月23日　■事務所：鳥取市扇町22-1　山陰合同銀行鳥取駅南ビル

E-mail kitarc@infosakyu.ne.jp　http://www.infosakyu.ne.jp/kitarc/

今週の例会

2019年１月29日(火)　第2815回

◆唱歌　桃太郎
◆献立
カレーバイキング
◆委員会事項
出席表彰

◆卓話
「公立鳥取環境大学の現状とこれから・・」
公立鳥取環境大学
学長　江﨑信芳 氏

次週の例会

2019年２月５日(火)　第2816回

◆君が代・奉仕の理想
◆献立
100万ドルミール
◆委員会事項
誕生日御祝

◆卓話
Ｒ情報　道上正規さん
会員　福田　収さん

※例会終了後、定例理事会「梨花の間」

先　週　の　例　会

2019年１月22日（火）

会長挨拶

デービッド・アトキンソンさんという、英国生まれで在日30年の方の本を紹介したいと思います。この方は、大好きな日本を何とかしたいと数々の提言をなされています。これまでに、「新・観光立国論」、「新・生産性立国論」などを出版されてきましたが、この度、東洋経済から「日本人の勝算」を出版されました。

その中では、「著しい人口減少と高齢化の波が押し寄せている日本には、このままだと大変厳しい未来が待っている。今すぐに対応を始めないと日本は近い将来三流先進国に成り下がる」と警鐘を鳴らしています。

「今の国内の議論を聞いていると、今までの仕組みを微調整さえすれば何とかなるだろうというように、危機感が全く感じられない。一刻も早く別次元の対策を打たないと手遅れになる」とも説かれています。

別次元の対策のひとつは、「賃上げによるインフレ誘導だ」、「組織的・継続的な最低賃金の引き上げによって、日本は賃上げショックで生まれ変わる」と書かれています。また、「高付加価値、高所得経済」、「海外市場を目指せ」、「企業規模を拡大せよ」、「人材トレーニングを強化せよ」などと説かれています。

今年は新しい元号も始まりますが、大変革時代がやってくるなという予感がします。日本人は極めて優秀です。今なら「勝算」がありますので、日本人の英知を結集してこの危機を乗り越えなければなりません。

幹事報告

１．到着文書

１）ガバナー事務所より、青少年海外研修実態の調査アンケート

２）国際ロータリー 2019-20年度テーマ「ロータリーは世界をつなぐ」

３）鳥取大学より平成30年留学生交流推進会議の開催について　２/６(水)14：00より

２．例会変更・メーキャップ情報

クラブ名	日にち・受付会場	
鳥取中央ＲＣ	2.18(月)	ホテルニューオータニ鳥取
	2.25(月)	
鳥 取 Ｒ Ｃ	2.28(木)	アクティビル５階
鳥取西ＲＣ	2.22(金)	ホテルニューオータニ鳥取
鳥取中央ＲＣ	2.25(月)	ホテルニューオータニ鳥取
智 頭 Ｒ Ｃ	2.20(水)	鳥取銀行智頭支店カウンター
倉 吉 Ｒ Ｃ	2.5(火)	倉吉信用金庫うつぶき支店
	2.19(火)	
	3.5(火)	
倉吉東ＲＣ	2.21(木)	倉吉シティホテル
倉吉中央ＲＣ	2.20(水)	倉吉シティホテル３階
米子南ＲＣ	2.18(月)	ANAクラウンプラザホテル米子
米子東ＲＣ	2.6(水)	ANAクラウンプラザホテル米子
境 港 Ｒ Ｃ	2.5(火)	アジアンレストランアグニ１Ｆ

３．その他連絡事項

・東部５RC合同例会の参加締切りが１/29です。参加が少ないのでよろしくお願いします。
・事務局インフルエンザ
・２月の予定
　２/５(火)　通常例会
　２/12(火)　勤労学生表彰式
　２/19(火)　休会
　２/22(金)　東部５クラブ合同例会
　　…ニューオータニ鳥取
　２/26(火)　創立夜間例会

委員会報告

◎出席率報告

１月22日　会員46名中　欠席12名　73.91％
１月８日　補正後　欠席７名　84.78％

メークアップ
1/15　倉吉東RC　宮﨑典之さん
1/20　地区ローターアクト会議　白岩裕己さん
1/21　鳥取中央ＲＣ　水野治郎さん
　　宮﨑正彦さん　森下泰年さん
　　田中英剛さん

＊スマイル報告（本日8,000円 累計291,641円）
森本美明さん　いつも言い忘れておりました。正面机のロータリーマークの歯車が欠けておりましたが、新しくなりました。報告いたします。インフルエンザが流行しております、ご自愛ください。
田中和夫さん　インフルエンザが大流行のようです。皆さん気を付けましょう。
宮﨑正彦さん　日曜日午後放映中の「そこまで言って委員会NP」の収録の観覧で大阪読売テレビに行って来ました。うるさいおじさんたちはさておき、女医の丸田先生がビックリするくらい美人でした。２ショットも撮り幸せです。
本家勇子さん　本日卓話です。よろしくお願い致します。
白岩裕己さん　１月20日鳥取で開催した地区国際交流行事・会長幹事会に参加してきました。鳥取ローターアクトの会員、何としても増強しなければと思いました。
早退　１件
＊２大御祝（本日０円　累計76,000円）

卓話
「2018国際大会とカナダ観光」　**本家勇子さん**

2018年６月23日から27日まで、カナダのトロントで行われた国際大会に参加しました。カナダに滞在したのは、6月21日から30日までの10日間でした。
初日は、羽田からトロントへ、そしてナイアガラに到着して、マリオット・オン・ザ・フォールズ・ホテルに宿泊しました。直下にナイアガラの滝が見える素晴らしいホテルでした。カナダ滝とアメリカ滝がありますが、カナダ滝の方が迫力あります。しかし、サンパウロ大会の際に訪れたイグアス滝に比べると見劣りがしました。
友愛の家は、メトロ・トロント・コンベンションセンターに設けられました。友愛の家とは、国際大会などで、ロータリアンが自由に出入りして相互に交歓し友情を深めるための場所のことです。友愛の家に入るにはICチップ入りの参加証が必要になります。友愛の家でゆっくりしたかったのですが、なかなか時間がなく残念な思いがあります。
一方の本会議は、エア・カナダ・センターで行われました。国際会議は、日本語通訳がつきますが、これにはラジオを使います。周波数を選んでチューニングすると、同時通訳を聴くことができました。
トロントでの国際大会のあとは、カルガリーに飛び、カルガリーからパンフまで移動しました。パンフでは、サルファー・マウンテンに行き、ゴンドラに乗って山頂まで行きました。また、サンソンスピークの峰へのトレイルも楽しみました。ここには、360度広がる展望がありました。
次にカナディアン・ロッキーを観光しました。コロンビア大氷原とアサバスカ氷河を観光しましたが、ここでは初めて雪上車に乗りました。氷河は年々後退していて、あと10年もすれば消失するかもしれないとのことでした。
バンクーバーからフェリーでビクトリアに渡り、ブッチャート家が所有するブッチャート・ガーデンを見学してきました。素晴らしい庭園でした。
10日間の旅でしたが、色々な人に会って、色々なことを経験して、色々な人に会って友好を深めてきました。今年の国際大会はハンブルグでありますので、皆様ご参加されたらいかがでしょう。

「ナシ産地鳥取の今昔」　**田邉賢二さん**

１．鳥取ナシ産地のはじまり
明治37年、桂見の地主であった北脇永治氏が、松戸市の松戸覚之助氏より「二十世紀」の苗木10本を購入して栽培を始めたのが、鳥取二十世紀梨の始まりです。北脇氏は、苗木生産も行い生産者を広めていきました。当時の樹は、今日もなお3本残っていて、立派に実をつけています。
同じ頃、東郷町でも二十世紀の栽培が始まりました。東郷地区では、奈良の置薬商人に依頼して、奈良県吉野郡薬水の先進農家から苗木を取り寄せ、栽培を始めました。
明治30年代の国内の二十世紀梨栽培状況をみると、千葉などの関東諸県、新潟県、静岡県、愛媛県、岡山県がありますが、いずれの産地でも黒斑病が発生し、その対策ができなかった為に、他の果樹に切り替えられたという歴史があります。
一方、鳥取の生産者は、農業試験場、農林省の担当者と協力し、黒斑病防除対策技術を確立して難を克服した経緯があります。
２．今日の鳥取ナシ産地の状況
昭和末期の県下のナシ栽培面積は3,500～3,800haで、その中で二十世紀が3,000haでした。このように二十世紀に対する拘りが非常に強く、新品種への更新が進みませんでした。平成になって、栽培面積は800～1,000haまで減少しています。
３．産地振興補助金（構造改革事業）の功罪
昭和37年頃から「農村農業構造改善事業」が国策として導入され、原野・丘陵地のナシ園造成が行われました。昭和40年代前半のインフレ前に構造改善事業に採択され、果樹園造成や選果場建設が行われた産地では、インフレのお陰で返済の負担が軽減し、事業は成功しました。しかし、インフレが終息してから着手された地域では負担が大きく、苦しい結果となりました。この「よかれ」と思って取り組んだ事業が、鳥取のナシ産地低迷の原因とみなされます。
このようなことがあって、今日、農協－選果場－全農への出荷を行わず、生産から販売に至るまで自家努力で対応している生産者が元気で、また後継者も育っています。流通にかかわるマージンが、いかに農家を阻害しているかの、ひとつの事例であります。

（担当　秦野諭示）